

2016年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	電気通信工学科・建築・デザイン学科・情報学科							
科目名	環境学入門							
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2/3年前期			
必修・選択の別	必修科目(組み込みシステムコース)／選択科目(電気エネルギーコース)／選択科目(情報システムコース) 必修科目(建築工学コース)／選択科目(建築コース)／選択科目(デザインコース) 必修科目(ネットワークコース)／選択科目(ソフトウェアコース)							
担当者	依田 浩敏							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。 ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。 ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。 							
日程と内容	4/12 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、環境関連の検定や資格などについての説明 4/19 持続可能な社会に向けて 4/26 地球を知る（地球の基礎知識、いま地球で起きていること） 5/7 環境問題を知る（地球温暖化） 5/10 環境問題を知る（エネルギー） 5/17 環境問題を知る（生物多様性・自然共生社会） 5/24 環境問題を知る（地球環境問題） 5/31 環境問題を知る（循環型社会） 6/7 環境問題を知る（地域環境問題） 6/14 環境問題を知る（化学物質、震災関連・放射性物質） 6/21 持続可能な社会に向けたアプローチ 6/38 各主体の役割・行動（各主体の役割・行動、パブリックセクター、企業の環境への取り組み） 7/5 各主体の役割・行動（個人の行動、NPO, 主体を超えた連携）、まとめ、環境・循環型白書 7/12 エコ検定試験過去問題（演習を含む） 7/19 定期試験(90分) 7/26 レポート課題（環境に関する文献調査）							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	10%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。：達成した ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。：達成した ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。：達成した 							
反省点	7月に実施された環境社会検定合格を目指したが、受験申し込みは22名(E:5名,A:13名,J:4名)、うち受験者 18名(E:4名,A:11名,M:3名)、合格者9名(E:3名,A:4名,J:0名)という結果であった。昨年度より合格者が増えたが、受験する学生が少なかった。「大学の奨学金制度に環境社会検定合格も加えてほしい」との学生からの声もあった。							
来年度の計画	今年度、履修制限を設けたがその課題が明らかになった。来年度からは5学科同時の担当になるが、問題が起こらないように対応してもらいたい。 環境社会検定を受験し、合格する学生を増やしていく。							
授業評価アンケートに対するコメント	テキストがエコ検定の公式テキストであり、内容が濃いものであるため、限られた講義時間では十分に教えることが難しかった。総合点8.2点で平均を上回った。 講義以外に予習復習が必要であることを周知し、そのための資料も作成したが、十分に活用されていない。 検定試験を受験し合格することを目標にする学生と、単に単位取得を目的とする学生と分ける必要があるかもしれない。 昨年度に学部要望した「大学の奨学金制度に環境社会検定合格も加えてほしい」との要望に対する対応に期待する。							
履修登録者数	128名	定期試験 受験者数	118名	合格者数	100名	合格率	85%	